

梅園整備保全事業及び神社行事



会員の御奉仕による梅園整備（草刈り、堆肥等々）

退任総代 四年間ご苦勞様でした



梅、桃、つつじの花が綺麗に咲きました

天神会総会



輪くぐり神事



七夕祭



夏越し・年越しの大祓い式



天神社祭典



芋酒会・歌謡ショー



見事な自然薯



歳旦祭



節分祭



梅花祭

北島 啓進

中村 康夫

「口ウソク 炎きらめく 遷座祭  
 浄間の中 絹垣浮かぶ」

「氏子らが 絹を囲いて 参進み行く  
 小雨ふる間 警蹕響く」

天神社宮司御挨拶  
 天神会総会おめでとうございます。  
 先日は仮殿遷座祭にご奉仕いただき、  
 ありがとうございます。  
 総会に当たり、次の二首にて、挨拶に  
 代えさせていただきます。



天神会天神会天神会  
**天神会会報**  
**梅鉢**  
 第十五号  
 天神会天神会天神会

天神会会長御挨拶

一言ご挨拶を申し上げます。  
 会長の職をお受けして本年で八年目となり  
 ます。これまでお努めできたのも宮司をは  
 じめとして、役員の皆様、会員の皆様方の  
 温かなご指導、ご協力の賜ものと深く感謝  
 申し上げます。四月二十三日、仮殿遷座  
 祭が無事終了し、これから本殿の修復工事  
 が始まります。十月には素晴らしい本殿、  
 覆殿がお目見えするはずで、益々谷崎天  
 神社が映えてきます。そして、訪れてくる  
 人も多くなるでしょう、癒しの場として、  
 社として。天神社のために、尊いご浄財を  
 心配して下さいました方々に深く感謝申し  
 上げます。振興会も総代の方々と共に本社  
 をお守りしなくてはなりません。本年度は、  
 集大成の年、会員の皆様のお力をお借りし  
 てやり遂げたいと思っておりますので、何  
 卒ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

平成28年5月吉日  
 天神会編集委員  
 中村康夫 見山正  
 大野之 啓山敏明



今年も、実をつけています。

## 天神社総代退任の御挨拶

天神会、総会を迎えられ、誠にめでたうございます。  
天神社総代をお受けして、四年間の任期を宮司を始め、皆様方の御指導、御支援に支えられ、無事ここに終了する事になりました事、厚く御礼申し上げます。  
さて、前年より天神社覆殿の修復の計画が持ち上がり、建築委員会の御尽力により、本年四月仮殿遷座祭が執り行われる運びとなり天神社総代の最後の仕事として、この遷座祭への御奉仕をさせて頂く事、誠に光栄に存じます。  
今後の天神社、及び天神会の益々の御発展と御隆盛を祈念して退任の御挨拶とさせて頂きます。  
ありがとうございます。

岡本 光市

退任にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。皆様方の推挙により、谷崎天神社の総代を務めさせて頂きました。四年間という長い期間では有りますが、皆様方のご協力により何とか大役を全うできたと、思っています。  
おまえば、神社行事、祭典などの諸作法が難しく、岡本さん、鈴木さん、高木さん、という総代仲間と練習をしたのを思い出します。  
また、年度をまたぎましたが、人生で一度有るかという仮殿遷座祭に奉仕させて頂いただきまして大変貴重な経験をさせて頂いただきました。  
今後とも、谷崎天神社の益々の発展と天神会及び町内会の皆様がたのご健勝を祈念いたしましたして、退任の御挨拶といたします。四年間ありがとうございます。

多米 治夫

北島宮司はじめ天神社関係者皆様のご指導ご協力を頂き、四年間の天神社総代の任期を終えることが出来ましたことに感謝申し上げます。  
新しい社務所が完成し、平成二十六年度より進行してゆきます本殿等の修復工事も二十八年度に完成予定です。天神社の各祭事・行事が一層充実してゆくことと思っております。同時に谷崎天神社の名がより周知されていくことを期待して、今後は新総代のもと皆様と共に天神社の活性化に頑張っていきたいと思っております。

高木 雅章

春の息吹が感じられる頃、四年前皆様の御推挙により総代の任を与えられました。成人から三十歳代の頃にはこんな大役は仰せつかるとは想像することすら有得ませんでした。当分の私的心中では総代（様付け）と言えばお家柄（良家）の方々が祭事を執り行うものと思ひ込んでおりました。  
しかしながら時の移り変わりと共に、社会の世相も風潮も変化してまいりました平たく言えば総代とは言え、庶民化されていると言っているのではないかと思ひます。時にそんな中微力な私が四年間努めさせて頂いたことが出来たのも皆さんの御理解、御協力が有ったればこそと深く感謝しております。

特に宮司様の豊富な経験上からくる完璧なまでの知識、所作の御指導は大変有難く感慨深いものが有りました。直ぐに思ひ出されることは、最初の祭事として例祭での神饌授受においては、膝は震えるし腕は硬直するし大変な緊張感を味わったことを今でも思ひ出されます。  
誠に恐縮ですが、そんな私でも大きな失敗もなく無事努めることが出来たのも本人的には、及第点をあげてもいいかなと思ひもしております。さていよいよ天神社も地元のお宮様から県内外を問わず全国的にも発信されていることは好条件の一つだと思われまます。私の中では鎮守の神様は勿論のこと近隣においては、他の社にない教育の神として君臨している菅原道真公と言う大義名分が存在することは、若者の信者、無宗教者に与える影響は大きなものがあると固く信じております。  
宮司様を中心として歴代の総代の方々の努力の結果が脈々と受け継がれている要素だと思わずにはいられません。  
意を尽くしません、最後になりましたが天神社の益々の発展と弥栄そして全ての崇敬者の幸多かれと願いつつ退任の挨拶とさせて頂いただきます。

継続は力なり！

鈴木 正見